

大会時・コロナ禍での取組

- ・テレワークは一部の営業事務でコロナ禍初期より導入していたが、新型コロナウイルスの感染症拡大に伴ってグループのテレワーク推奨をきっかけに、全グループ的な取組みとして推進
- ・2021年6月頃：無観客開催が決定されたタイミングで、協力会社や得意先に交通規制の情報を伝達

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約2割（倉庫や輸配送に関わる社員は未実施）
- 有給休暇の計画的な取得の促進・実施・・・大会中は年5回の有給休暇含む夏季休暇取得を奨励
- 会議等の自粛・・・Web会議サービスを利用。コロナ禍により社員スキルアップのための講習会等が自粛・延期に。オンラインでの受講に一部変更

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

□ 取引先との配送に関する調整

- ・無観客開催が決定されたタイミングで、協力会社や得意先に交通規制の情報を伝達し、ルート変更等を実施

取組ポイント

- グループ会社のテレワークのノウハウを参考とすることで、スムーズに取組を実施

取組ポイント

- 事前に会場周辺の交通規制情報を行政から入手し、配送ルートを検討・決定

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

□ テレワーク

- ・物流の現場はエッセンシャルワークであり、「止まらない物流」のため実施率の向上は難しい
- ・しかし、物流を止めないための事業継続において、今後もテレワークをせざるを得ない場合や、テレワークの方が効率が良いと判断される場合には実施

物の流れ

□ 営業車などの社用車の利用の削減

- ※2022年4月の道路交通法の改正により、営業車の管理体制がより厳しくなることから、現在所有している社用車を1/3削減する予定

【東京2020大会を振り返って】

- ・新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により期待されたインバウンドの減少、無観客開催、飲食店の営業自粛や閉店、得意先関連の工場の製造低調・休業等もあって、物流、物量そのものが例年よりも減っていた。EC好調による商流・物流の変化も拡大したと思われる。